

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目 120分

## 解答形式

式・説明を含む記述, 答のみの記述, 論述, 描図, 選択

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

※大問数が3題から, 例年の2題に戻った。

## 出題の特徴

全学科(医学部・歯学部・保健衛生学部)の共通問題は基本～標準的で, 医学部専用問題は難しいことが多い。また, 数学の力を要する問題や, マイナーなテーマが出題されることがある。

## その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

特に無し。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	問形式	力学 (力のつり合い, 斜方投射・斜面との衝突, 円形につながれた多数の小球とばねによる単振動)	物理基礎 物理	問1の斜面上の力のつり合いは基本問題。問2も典型問題だが, 計算を要領よく進めないと時間を取られる。問3は見慣れない設定でやや複雑。難しいわけではないので, ミスのないように正確に計算を進めたい。	やや易
2	問形式	電磁気 (非オーム抵抗を用いた様々な直流回路)	物理基礎 物理	電圧と電流の関係が関数で与えられた抵抗による, 直流回路の問題。主に, 回路方程式による定量的な考察を進めるが, 問2の抵抗の大小比較や, 問4と問7の電流の大小比較は, 問1のグラフで定性的に考察するとよい。問5では, 回路の対称性より $X_3$ と $X_4$ の電位が等しいことに気が付けば, 前問の結果を用いて素早く解答できる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

基礎～標準的な問題は, 素早く確実に解けるようにしておこう。さらに, 医学部受験生は, 様々な応用問題にも取り組み, 多様な問題に対応できる力を養うことが重要である。見通しよく計算を進める力や, 簡潔な解答を書く力も大切である。また, 数学的な力が必要な場合や, マイナーなテーマからの出題も見られるため, 過去問などで十分に対策をしておきたい。